

1. 喫煙防止教室について

資料3

《経緯》

未成年は喫煙による健康への影響を受けやすい、喫煙開始年齢が早いほど病気になりやすく早世するリスクが高くなる、若いうちに習慣的な喫煙を始めるほどニコチン依存度が高い人が多くなるといった様々な調査報告がある。

そのような実態を踏まえ、平成26年に策定した健康増進計画「第2次健康リっとう21」において、小中学校における健康教育の実施を掲げ、未成年の時期からの喫煙防止を働きかける取り組みとして実施し、令和6年に策定した「第3次健康リっとう21」においても継続した取り組みを行っている。

《実施概要》

(目的)

栗東市内の公立小中学校に通学する児童・生徒に対して、喫煙が及ぼす健康への影響に関する正しい知識の学習機会を等しく提供することによって、将来にわたって児童・生徒自身および周囲の人々が喫煙による健康被害を回避するとともに、ひいては次世代へ健康的な生活が継承されることを目的とする。

(内容)

- (1) 喫煙、受動喫煙が及ぼす健康への影響についての知識の普及
- (2) 未成年者の喫煙に関する意識の把握

(対象者)

市内の公立小学校に通学する小学5年生の児童
市内の公立中学校に通学する中学1年生の生徒

1

《実施内容》

●指導の展開、流れ

- ① パワーポイントを使用し、めあて、流れについて児童に説明する
- ② 動画の視聴
小学5年生：『健康な未来を決めるのはあなた』（アニメ）
中学1年生：『たばこの煙の恐ろしさ 吸ってる人にも吸わない人にも』
- ③ パワーポイントを使用し、補足説明、〇×クイズ、喫煙を誘われた場合の断り方を伝える。
- ④ まとめを伝える
- ⑤ アンケートを実施する
- ⑥ 喫煙防止リーフレットを配布する（小中共通）

小学5年生動画



中学1年生動画



●近年の変更点、追加内容

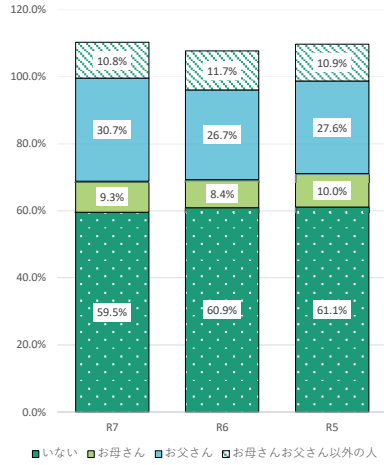
- ・学校の先生より「怖い印象がなく、吸い始めると辞めにくいというイメージのみであると吸う可能性があるため、海外のたばこのパッケージや双子の画像など海外で実際に使用されているものを活用して欲しい」とご意見があり、スライドを追加した。
- ・若い世代を中心に加熱式たばこ使用が広がり、健康への影響が少ない、禁煙目的で紙巻きたばこから切り替える等間違った認識もあるため、令和8年度よりパワーポイントによる説明およびリーフレットへの記載を増やした。
- ・動画中の知能指数や結婚観、家族関係など配慮が必要な内容やまちがった受け止め方になる可能性のある部分は飛ばして視聴するように依頼した。

2

2. 実施後アンケート調査の結果

家族の喫煙状況との関連に注目して過去3年分の小学5年生のアンケート結果を分析した。

Q. あなたのおうちでたばこを吸っている人はいるか？
(複数回答のため、100%を超えています。)



栗東市では
約4割の家庭で喫煙者あり



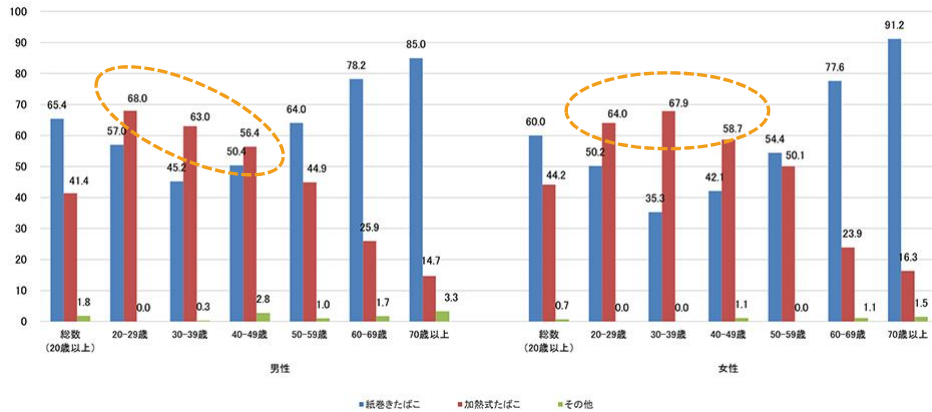
習慣的に喫煙している成人の割合
※厚生労働省国民健康・栄養調査より

	男性	女性	(全体)
令和5年	25.6%	6.9%	15.7%

3

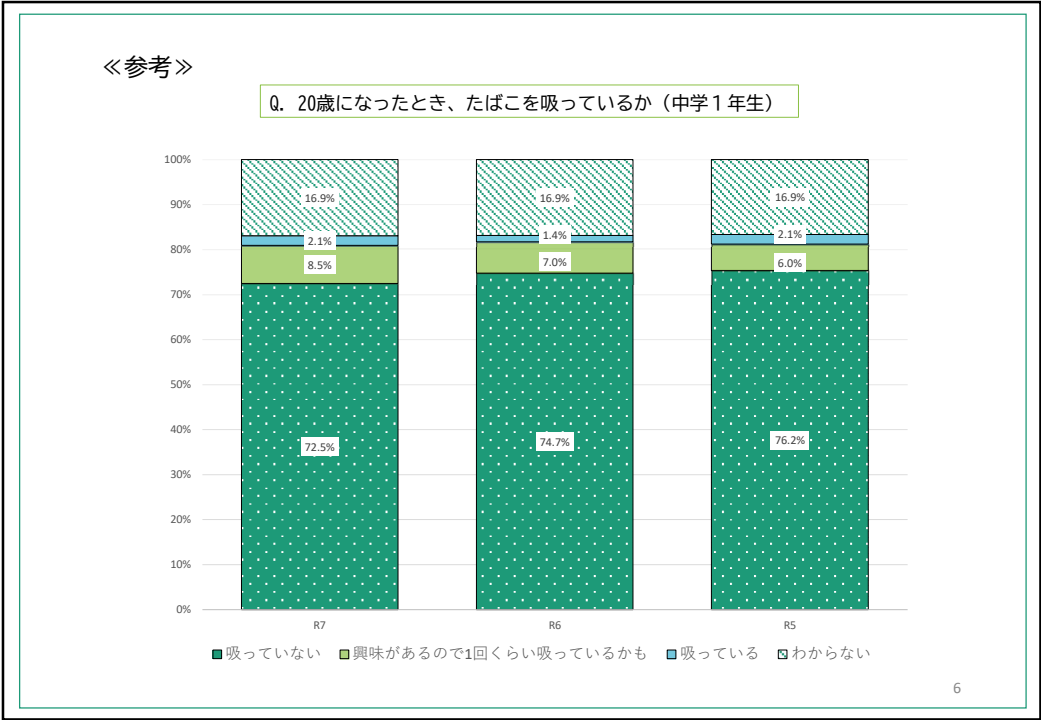
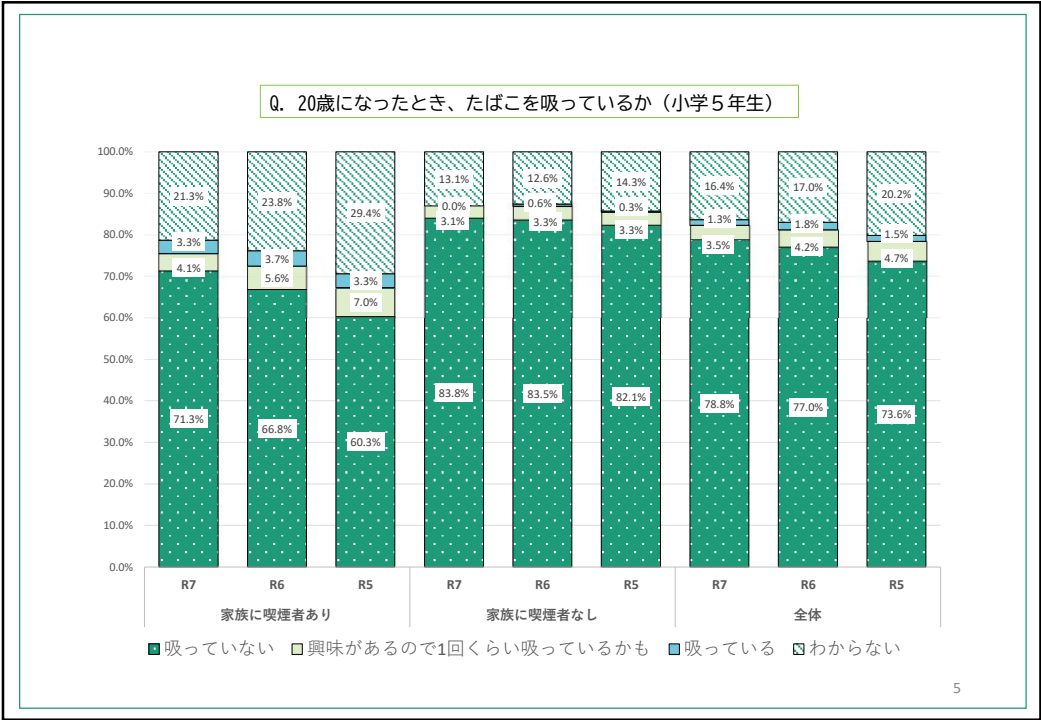
《参考》

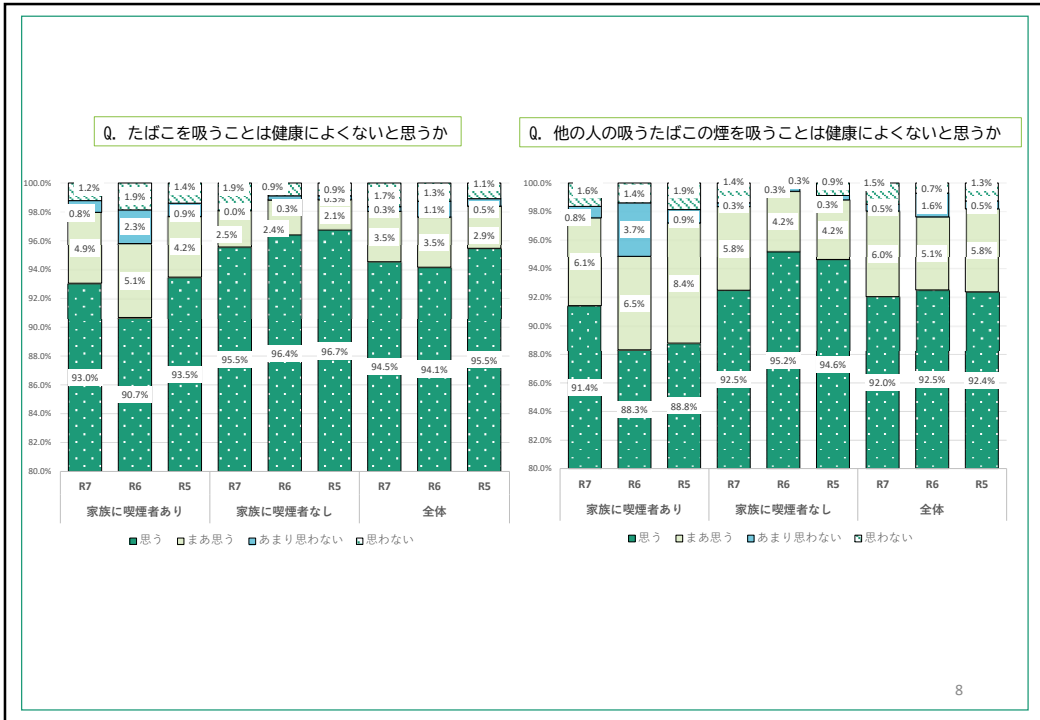
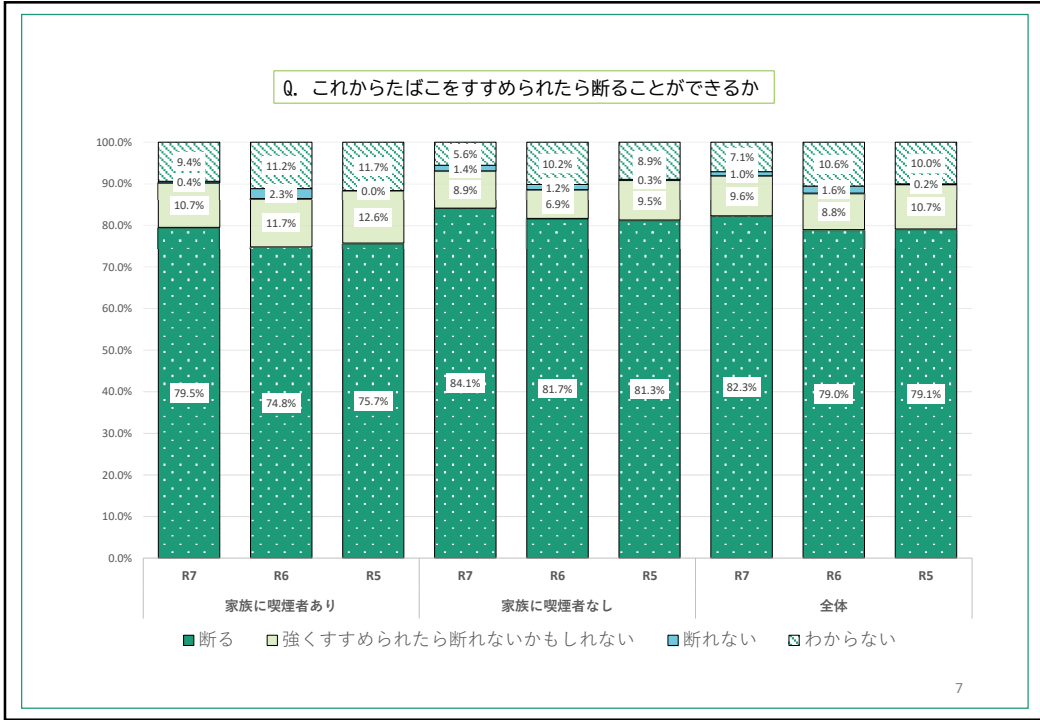
喫煙者の使用しているたばこ製品の種類(複数回答)(2024年)



出典：国立がん研究センターがん情報サービス

4





<自由記載より一部抜粋> ※原文のまま記載しています。

- ・お父さんが、タバコを吸っている人なので、今回の授業で教えてもらったことを、お父さんにも伝えてあげたいし、自分も、タバコを吸わないように、努力をしていきたいです。
- ・ママにタバコをやめてほしい。
- ・親が吸っているので動画のことを伝えて行きたい。
- ・自分も将来吸わないようにしたいし、お父さんにも話してあげたいです。
- ・おばあちゃんがタバコを吸っているので、優しく注意をしてあげようと思いました。
- ・お父さんの弟がタバコを吸っていて、タバコを辞めると言っているのに続けているので今日勉強したことを活かしてなぜやめないといけないかをきちんと言います。
- ・お父さんが吸ったらタバコ買う金があるんやったら他のものに金かけてと言う。周りの人が吸ってたらなるべく吸わないようにする。
- ・お父さんがタバコをすっている時にはあまりちかくにいかないほうが良いと思った。
- ・前のお父さんがタバコを吸っていたのですが、すごく老けて、歯が黄色かったので吸いたくないと思いました。
- ・誘われたら逃げる。(逃げたら勝ち作戦)お父さんが吸っていたら他の部屋に行く。
- ・親にはやめてほしいけど簡単にはやめれないと思うので少しずつ量を減らしてもらえよう、頑張ります。
- ・おとうさんはタバコをすっていて「あーもうやめられへんなあ」と言っていたのでやめられなくなる前にやめてほしいと思いました。

9

3. アンケート結果からわかったこと

- 「20歳になったとき、たばこを吸っているか」の問いに対しては、喫煙防止教室実施直後ということが影響し、全体としては『吸っていない』の回答者が多い。
- 「20歳になったとき、たばこを吸っているか」の問いに対して家族に喫煙者いる児童と喫煙者がいない児童とを比較したとき、『吸っていない』と回答した児童はいずれの年度においても10%以上喫煙者がいない児童の方が高かった。また、『わからない』の回答については、いずれの年代も喫煙者のいる児童の方が高かった。
- その他の質問に対しても『(将来) 吸っていない』『(すすめられたら) 断る』『健康によくないと思う』といった、明確な意思表示となる回答は家族に喫煙者がいない児童の方が高かった。一方『わからない』『断れないかもしれない』といった曖昧さがある回答は、家族に喫煙者いる児童の方が高かった。
- 自由記載欄では喫煙防止教室を受けて家族など身近な大人の健康を心配し禁煙してほしいという内容や受動喫煙による自分の健康を心配する内容が見られた。また、ニコチンの依存性から禁煙は難しいということを受け止めつつ、それでも喫煙を続けてしまうことを心配する記述もあった。



内容を見直しながら、喫煙防止教室を継続することが必要。
あわせて、児童の周囲への大人（保護者）へ喫煙防止にかかる働きかけが必要。

10

4. 今後について

- 学校と連携して、喫煙防止教室の継続する
 - ▶ 若い世代を中心に広がっている加熱式たばこについての内容を充実させる。
 - ▶ 令和8年度実施した小学校の先生からは
「動画も古くなっていると思うので、最新の時代に合った動画だとより良いと思った」との意見あり。
- 児童・生徒を通じて保護者へ啓発
 - ▶ 様々な家庭や背景があるため、保護者に直接的に禁煙を促すような文面ではなく、児童・生徒が学んだことや喫煙防止教室を受けて感じたことを“お知らせする”という形式で啓発を行う。
 - ▶ 市公式SNS等で健康情報の一つとして、喫煙防止教室の取り組みを紹介する。
- 事業評価方法としての課題

「将来たばこを吸わない、吸いたくない」という意識が継続していくことも大切であるため、中学生でも喫煙防止教室を実施することになっている。

今回、中学生用のアンケート項目には家族の喫煙状況に関するものがなかったため、生徒の周囲の喫煙状況と将来の喫煙に対する意識、小学5年生で学習してからの本人の意識の変化や家族の喫煙状況の変化を計ることができなかった。

より効果的に事業を行うためにアンケート項目についても見直し、児童・生徒の喫煙防止の意識を継続していく取り組みについて検討する必要がある。